

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年11月20日 NO.59 (159)

花ちゃん 「ねえ、オー君！このごろ寒くな^{さむ}ったね。」

オー君 「そうだね。とくに朝は寒^{あさ さむ}いね。でも、子どもは風^{かぜ}の子！元^{げんき}気な子だ！」

モンタ博士 「そのとおりだね。寒^{さむ}さに負^まけずに、元^{げんき}気をだそう。」

花ちゃん 「はい！わかりました。ポケットに手^てを入れて歩^いいたりしません。」

オー君 「フードをかぶ^あって歩くと、右^{みぎ}左^{ひだり}がよく見^みえなくなるから、やめまーす。」

モンタ博士 「そのとおりだね。それから、朝^{あさ}、寒^{さむ}くなっても、いつも見^み守^{まも}り会^{かい}の人^{ひと}が立^たっ
ていて、ぼくたちの安全^{あんぜん}を見^み守^{まも}ってくれているだろう。元^{げんき}気な声^{こゑ}で、『おはよ
うございます！』と、しっか^ありと挨拶^{あいさつ}したり、感謝^{かんしゃ}の気^き持^もちを持^もつようにし
ようね。」

花ちゃん 「はい！わかりました。ところで、モンタ博士！わたし、通^{つうがくろ}学^{がく}路^ろできれいな
モミジ^みを見^みつけちゃいました。」

モンタ博士 「ほほー。それはよ^よかったね。」



色づくモミジ



コウテイダリア

オー君 「ぼくは、大^{おお}きくてきれいな花^{はな}を見^みつけちゃいました。おうちで調^{しら}べたら、
コウテイダリアという植^{しょくぶつ}物^{ぶつ}だそうです。」

モンタ博士 「ほほー。それはすばらしいね。通^{つうがくろ}学^{がく}路^ろは、しっか^ありと歩^あかなくてははいけ
ないけど、道^{みち}々^{みち}いろい^{はな}ろいろな花^{はな}や虫^{むし}を見^みつけることも楽^{たの}しいことだし、季^き節^{せつ}の^{へんか}変^{へん}化^かも
おし^{おし}教^{おし}えてくれるね。車^{くるま}や自^{じてんしゃ}転^{せん}車^{しゃ}に気^きをつ^つけなが^ら、いろい^ろろな^{もの}の^を探^{さが}してみ

よう。」

花ちゃん 「それでは、モンタ博士も今からいっしょに通学路をお散歩しませんか。」

モンタ博士 「ほほー。それは楽しそうだね。」

オー君 「それでは、お散歩に行こう。レッツ・ゴー！」

ということで、三人で楽しく通学路をてくてくしたとさー・・・

モンタ博士 「街が色づきはじめたね。それに、落ち葉が風に舞ったり、秋本番だね。」

オー君 「何かないかな？」

花ちゃん 「何かないかしら？」

モンタ博士 「お！あそこに、『お茶』があるね。」

オー君 「え？もうお茶にするんですか？一休みするのですか？」

モンタ博士 「ちがうよ。ほら見てごらん。『お茶』つまり、『チャ』の木があり、花もさいているよ。白い花だよ。よく見てごらん。この前3年生の子が持ってきてくれたけどお茶の実（正しくは種子）も落ちてきているよ。よく見てごらん。」



花ちゃん 「へえー。お茶はよく飲むけど、お茶の花を見たのは初めてです。」

オー君 「ちょっと黄色っぽく白くてきれいな花ですね。ぼく、気にいっちゃいました。」

花ちゃん 「ところで、お茶はよく飲むけど、葉や茎を何とかするんですよね。」

モンタ博士 「そうだよ。お茶の木は、もともと日本にはなかったものなんだ。ある書物によると、805年に最澄というお坊さんが薬にするために中国から持ってきたともいわれているんだ。今では、あちこちに野山にふつうに見ることができる植物なんだよ。」

続く・・・